

私らしく あなたらしく 一人ひとりが輝く社会へ

はあもにい1

【熊本市男女共同参画情報誌】

特集

何それ!?

審議会

「市民の声を届ける場所があるらしい」



○報告

- ・LGBTセミナー「ひとりぼっちをつくらない地域づくり 性の多様性から考える」
- ・熊本市女性のつながりサポート事業ウーマンズカフェ
- ・支援者のためのDV防止セミナー「トラウマとしてのDV・児童虐待」

○講座・イベントレポート

- ・はあもにいフェスタ2023記念講演会(ジェーン・スー氏)／
プチ起業はじめの一步セミナー & 座談会／父子でXmas寄せ植え講座

行政が政策を決定する際に、さまざまな立場の人から意見を聞く「審議会」。「いつ開かれて、どんな話をしているの？」など、知らないことも多いのでは。今回は、多様な意見が求められる審議会についてお伝えします。

何それ!?

いつ開かれているの?

どんな話をしているの?

審議会

市民の声を届ける場所があるらしい



Focus

国は「人口の半分を占める女性が委員として参加する割合をさらに向上させ、男女の人数をなるべく均衡させることが望ましい」とし、国の審議会等委員に占める女性の割合の目標を「40%以上 60%以下」(内閣府「第5次男女共同参画基本計画」より)に設定しています。

審議会では、議題に対する専門的な視点はもちろん、専門性にとらわれない意見や発想も取り入れるため、一般市民を委員として選任する公募委員制度があります。公募委員を登用することで、市民の意見が反映された「協働のまちづくり」の推進につながります。

しかし、公募委員制度を知らない、知っていても何となく自分とは縁遠く感じている人は少なくありません。

今回は熊本市の審議会の傍聴や2人の公募委員ヘインタビューなどを実施。審議会を少しでも身近に感じられるきっかけになれば、と思います。

まちづくりを自分事に

STEP 1

熊本市の 審議会に ついて知ろう

多彩な熊本市の審議会 市民目線で意見を発信

熊本市では福祉や子育て、環境保全などさまざまなジャンルの審議会が200以上も設置されています（2023年4月1日現在）。一般市民も公募委員として、普段の暮らしや経験などから考えた意見を、会議で発信することができます。

公募委員の詳細は熊本市ホームページの「行政情報」や市政だよりの「委員募集」などに掲載されています。また、市内の審議会一覧も熊本市のホームページで見ることができます。

熊本市の公募委員について
※審議会によって内容が異なる場合があります

応募条件

原則、市内に在住、通学・通学して、熊本市の他の審議会などの委員になっていない人

選考

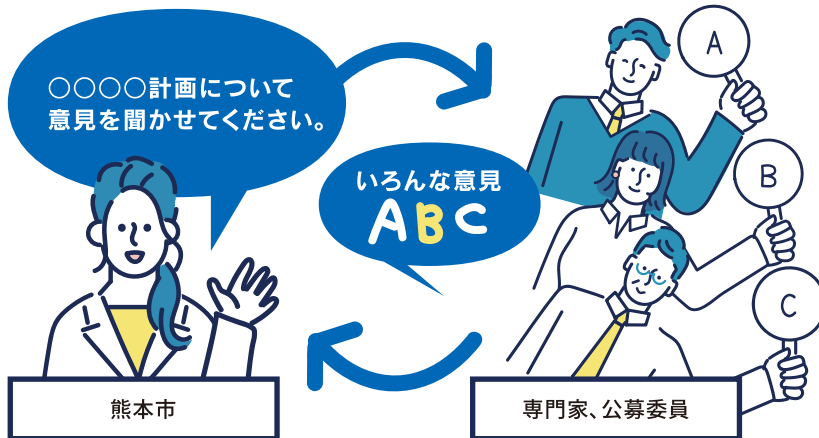
作文や面接など

報酬

あり

熊本市の審議会や一般公募について紹介します。また、はあもにいの市民編集員が審議会を傍聴。当日の様子もリポートします。

■審議会のイメージ



リポート

市民編集員が熊本市の審議会を傍聴！

審議会は傍聴できるものもあります。昨年11月10日(金)、熊本市役所で開催された審議会「第2回くまもと市男女共同参画会議」を、はあもにい市民編集員が傍聴しました。会議の様子や感想をお伝えします。

傍聴の感想

想像より厳格な雰囲気でした。意見を出すためには資料の熟読はもちろん、ある程度自分で学ぶ姿勢も必要だと感じました。その分野への関心や問題意識があれば、意見を直接伝え反映されることもあるので、やりがいは大いだと思います。



一般の傍聴者にインタビューする徳永さん



委員10人のうち、出席したのは、小学校や大学、病院、NPO関係者などさまざまな立場の8人。そのうち2人の女性が公募委員でした。議題は「第2次熊本市男女共同参画基本計画改訂版(素案)」について。委員は担当課から事前に送られた資料に目を通し、会議前に意見を提出していました。



担当課に、資料内の数値の根拠の確認や文言の修正の提案などを発言する委員



意見が受け入れられれば素案の文言に反映されます



市民編集員 徳永邦子さん

熊本市のHPから各審議会の議事録を確認できます



STEP2

公募委員 について 知ろう

前ページの「くまもと市男女共同参画会議」の公募委員である高島信子さんと坂口美果さんに、委員になったきっかけなどを聞きました。

肩書きに関係なく、市民の目線を生かし意見できる場

―審議会の公募委員に応募したきっかけを教えてください。

坂口さん 審議会について具体的に知ったのは、はあもにいウィメンズカレッジです。県立大学の澤田道夫教授が「政策や方針を決定する場に、女性が足りていない」と話されたことが印象に残りました。会社員として経験を積んでいるところで「意思決定の場で意見を言えるようになりたい」と思い、一歩踏み出しました。

高島さん 公務員を定年退職したのがきっかけです。以前より時間に余裕が生まれ「地域のために何かできることはないか」と考えていた時、市政だよりで公募委員の告知を読みました。



(左)高島信子さん(61)
熊本市在住/
キャリアコンサルタント/
はあもにいウィメンズカ
レッジ9期生

坂口美果さん(28)
合志市在住/
会社員/
はあもにいウィメンズカ
レッジ8期生



審議会で発言する高島さん

市民感覚を生かすことで、政策がスムーズに進めばいいなと思い応募しました。

―審議会の雰囲気や仕組みなど、気付きや率直な感想を。

坂口さん 会議の前に、担当課から大量の資料が送られ、それを読むのに一苦労で…。初めての審議会では十分

に読まずに参加してしまい、発言できませんでした。その反省を生かし、今は資料を読み、キーワードや関連する事例などを調べるようにしています。

高島さん 第1回の会議では会議室に市の職員がズラリと並んでいて、発言するタイミングが難しかったです(笑)。だからこそ、事前の準備が大切。あとは「慣れ」でしょうか。

坂口さん 自分の発言に対し「もっと違う言い方をすれば良かった」と反省し、担当課にメールでフォローを入れることも。意見をうまく伝える訓練にもなっています。

―公募委員になって良かったことは。

高島さん 有識者の意見を聞け、勉強になります。自分を含め、いろいろな人が関わって作られた政策が私たち市民に還元されると思うと、やりがいがあります。

坂口さん 意思決定の場で、責任を持つて発言したり考えたりする経験ができることが大きいです。プレッシャーはありますが、社会人として成長できるメリットもあると思います。

高島さん 私も少しだけ自分の成長を感じます。「くまもと市男女共同参画会議」に参加し、関連する新聞記事を読んだり、仕事でDV相談を受けるときにバイアス(先入観)を取り払っ

たりするようになりました。

―お二人とも委員になって意識の変化があったのですね。

坂口さん 何の肩書きもない私も参加でき、得られることはたくさんあります。そのことに気づき、「私も行ってみようかな」と思う人が一人でも増えるといいですね。

高島さん あくまで私たち公募委員に求められているのは市民感覚です。学生、主婦・主夫、会社員…いろいろな視点で感じることや思いを伝えるのが大切だと思います。市民に「審議会ってこういうがあるんだ」と関心を持ってもらっただけでも、「協働のまちづくり」への入り口になるのではないのでしょうか。



まずは、関心のある分野の
審議会を調べてみるのも
アリですね!

意外と身近なテーマが
見つかるかもしれませんね

女性の参画が社会課題解決への第一歩

政策・方針を決定する場合への女性参画の意義などについて、熊本県立大学の澤田道夫教授に聞きました。

大切なのは
「伝えたい思い」

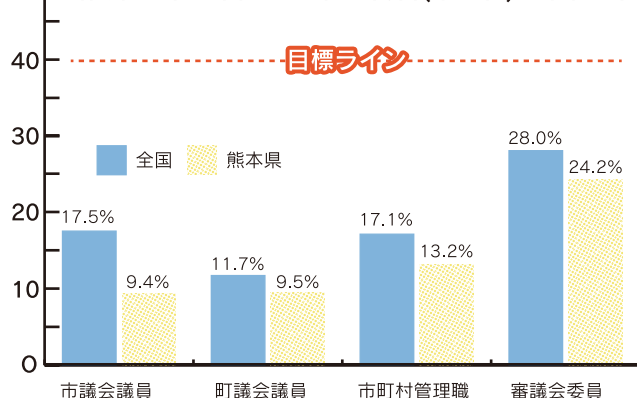


社会のさまざまな分野で活躍する女性が増えましたが、政策・方針決定過程における指導的な地位への参画は、県内でもいまだ進んでいないのが現状です（下図参照）。

子育てや介護などに関わる比重は男性より女性の方がまだまだ多い中、政策・方針決定の場に女性の参画が進むことは、社会の課題に光が当てられることにつながります。また、女性に限らず多様な立場や視点で議論されることで、社会全体にポジティブな影響を与えられます。

審議会で大切なのは伝えたい思いとやる気があることです。困り事や悩みなど、自分の経験に基づいて意見を出し合うことが、よりよい市政につながります。あなたも声を届けませんか。

指導的地位に占める女性の割合(市町村) 令和4年度



(データ参照:内閣府男女共同参画局「令和4年度地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」)



熊本県立大学総合管理学部教授
澤田道夫さん

information

審議会委員になった修了生も多数！
第11期はあもにいウイメンズカレッジ募集

地域や職場に生かせる
スキルアップ

政策をはじめ、地域や職場の方針決定の場に参画し自らの考えを発信できる女性人材の発掘と育成を目的とする「はあもにいウイメンズカレッジ」。6月から始まる第11期の受講生を募集します。

本特集で取材した澤田教授による講座をはじめ、男女共同参画の現状や課題、ダイバーシティの視点について

て分かりやすく学べます。また、合意形成や意見交換の手法などのスキル習得や受講生同士のネットワーキングづくりも！

興味・関心がある方はぜひご応募ください。不明な点は電話で問い合わせを。



詳細

期 間:2024年6月～2025年1月
※月1～2回、いずれも土曜開催
時 間:10時～12時半
対 象:原則、熊本市在住・在学・在勤の18歳以上の女性
場 所:熊本市男女共同参画センターはあもにい
受講料:5000円(全10回)
定 員:20人(先着順)
託 児:あり(1歳半～未就学児対象、要予約)
応募方法:4月5日(金)午前9時から受付開始。右記コードを読み取るか、または専用応募用紙を郵送、メールまたは会館へ持参で受け付け
問い合わせ:熊本市男女共同参画センターはあもにい ☎096(345)2550



LGBTセミナー(性的マイノリティへの理解促進に向けた講演会)

「ひとりぼっちをつくらない地域づくり 性の多様性から考える」

熊本市は2023年11月30日(木)、市民の性的マイノリティへの理解を深めるための講演会を熊本市男女共同参画センターはもにい多目的ホールで開催しました。

講師 弁護士 森 あいさん

熊本県弁護士会所属。阿蘇法律事務所。日本弁護士連合会「両性の平等に関する委員会 LGBTの権利に関するプロジェクトチーム」メンバー。「GID・法律上も父になりたい裁判」弁護団員(最高裁2013年12月10日決定)。「結婚の自由をすべての人に」訴訟九州弁護団共同代表(福岡高裁に係属中)。「連載 LGBTQと企業～訴訟トラブル予防、企業価値の向上」(22年7月号から12月号まで計6回。『ビジネス法務』中央経済社)の第1回執筆及び連載共同コーディネーター



一人一人の在り方が尊重される
社会に変えていくために

身体の性的特徴、自分の性別に対する認識、好きになる人の性がどちらに向くにかかわらず、一人一人の在り方は尊重されるべきです。

しかし、講師の森さんによると、日常のささいな会話に含まれるLGBTに対するからかいや否定の空気が当事者を傷つけ、生きづらくさせているそうです。時には、当事者の健康上の問題や最悪の場合は命にまで及ぶこともあると具体例や数字を挙げながら紹介。森さんは「当事者の日常や思いを知った上で、一人一人が意識を持ち行動すると『みんなが尊重される社会』に変えていく」と強調しました。

また、性についてカミングアウトを受けた場合に注意したいのが、本人に許可なく第三者に言いふらしたり、SNSに書き込んだりする「アウティング」といわれる行為。森さんは、カミングアウトを受けた人が秘密を受け止めきれないときの対処法の一つとして、人権に関する相談窓口などを利用することを紹介しました。「LGBTを受け入れられない場合、その理由を自分に問うてみることも重要。自分の気持ちを大切にしつつ、人にどんな言葉をかけるのかを考えてほしいです」と森さんは訴えました。

熊本市のパートナーシップ宣誓制度にも触れ、「世間に認められることが心の支えになる人もいます。いろんな人がいることが当たり前な地域は、豊かで生きやすく、強い地域になるはず」と結びました。

令和5年度熊本市女性のつながりサポート事業ウーマンズカフェ

子育て、仕事、介護などを頑張る女性へ 安心して話せる場所を提供

熊本市では今年度、新型コロナウイルスにより孤独・孤立を感じ、不安を抱える女性の居場所支援を実施。女性なら誰でも参加できるイベントカフェを市内4カ所で開催しました。



東区のグランモッコビレッジで開催された時の様子。子連れの母親たちがたくさん参加しました。

不安や悩みを気軽に
話せる居場所支援

女性の居場所支援「ウーマンズカフェ」は熊本市の「女性のつながりサポート事業」の一つです。「熊本こども・女性支援ネット(KCW)」が受託し、2023年9月から24年2月まで毎月熊本市内4カ所で計24回開催しました。

会場には、ビジョンマップ作りやアロマハンドトリートメントなどのブースが設けられ、スタッフが参加者と1対1でコミュニケーションを取りながら悩みや胸の内に耳を傾けました。運営スタッフの園田さんは、「年齢、環境、ライフステージにより女性の抱えている悩みはさまざま。話を聞いてもらうだけで不安が解消されることも多い」と語ります。

参加者からは、「自身のケアをすることができた。話すことでホッとでき、前向きになれた」「託児もあり子連れで参加できた。身近にもっとこのような場所が欲しい」などの声が聞かれました。多くの人が自分の内面と向き合う時間を過ごしたようです。

「トラウマとしてのDV・児童虐待」

熊本市は23年10月24日(火)に、支援者向けのDV防止セミナーを開催しました。特定非営利活動法人博多ウィメンズカウンセリング代表・榎木京子さんがトラウマとDV(ドメスティック・バイオレンス)・児童虐待との関係について話しました。

講師 特定非営利活動法人
博多ウィメンズカウンセリング代表 さわらぎ けい こ 榎木 京子さん

2003年から福岡県を中心に民間と公的機関で女性と子どもの支援、特にDVや性暴力の被害者の支援に携わる。近年は、フェミニズムやジェンダーの視点を持ちながら身体からアプローチするトラウマ療法を取り入れ、相談者の回復に取り組むとともに、支援者に対する数々の研修講師やスーパーバイズを務める。



トラウマの仕組みを知り 支援対象者の孤立防止につなげる

DVに関する支援活動などを行っている県内の団体から25人が参加。前半では、トラウマと脳や神経系の関係性を講師が解説しました。

近年、日本において、医療や福祉、教育などの領域で「トラウマインフォームドケア(TIC)」という考え方が適応されています。TICとは支援者が、対象者に「心の傷(トラウマ)」があるかもしれないという観点を持つて対応することです。

榎木さんは「トラウマについて理解するためには、脳の仕組みと身体の間を繋ぐことが重要」と言います。脳を3つの層に分けて考えた場合、その全ての層が連携して機能することで正常な状態を保ちます。DVや虐待によるトラウマを受けた場合、3つのうちの一部の領域が暴走。心的外傷後ストレス障害(PTSD)やパニック障害などのようなトラウマ反応を引き起こしやすくなるよ

うです。また、長い期間DV・虐待を受けている人は、ストレスで耐性領域(自分が耐えられるキャパシティ)が狭くなり、すぐイライラしたり、引きこもりやすくなったりします。相談者の耐性領域を考えながら対応することが大切です。

後半は、DVと児童虐待が子どもたちの脳にどう影響を与えるかについて話が及びました。

「子どもたちが幼少期に安全を感じられる状態にあったか、守ってもらえたか、信頼できる大人がいたか、などによって脳の発達への影響は大きく変わってきます」と榎木さん。

子ども時代が安全に過ごせず、辛い状況に置かれたまま成長した場合、生きづらさを抱えてしまうこともあるようです。

「DVや虐待の被害者の孤立を防ぐためにも、支援者がトラウマについていろいろな知識や情報を持って対応することがとても重要です」と伝えました。

女性人材リスト 登録者募集

熊本市は、誰もが平等に社会参画し、個性と能力を十分に発揮できる豊かで活力ある社会を目指しています。しかし女性の参画が不十分な現状があります。そこで、より多くの女性に政策・方針を決める過程へ参画していただくことを目的に、「熊本市女性人材リスト」を作成しています。

この人材情報は、熊本市の審議会等の委員への登用や講演会等の講師選定の際に活用されます。積極的なご応募をお待ちしています。

応募資格 18歳以上の熊本市民で、専門知識をお持ちの方、国家資格を有する方、公的機関における審議会などへの就任実績がある方、講演会活動・執筆活動等の実績がある方、勤務先や各団体に社会活動やボランティア活動をしている方、市政や地域の発展に熱意を持って貢献できる方など

募集期間 随時

申し込み方法 「女性人材リスト登録票」をメールまたは郵送でご提出ください。登録票は、男女共同参画課にて配布またはホームページからダウンロードできます。





はあもにいフェスタ2023 記念講演会

「これでもいいのだ
～正解はひとつじゃない～」

講師: ジェーン・スーさん
(コラムニスト、ラジオパーソナリティー)

2023年11月11日(土)、コラムニスト、ラジオパーソナリティーとして活躍中のジェーン・スーさんを講師に迎え、はあもにいフェスタ2023記念講演会を開催しました。「自分で幸せの形を見つけることの大切さ」をテーマに、軽妙な語り口で聴衆313人を魅了しました。



1973年、東京生まれ。2015年に『貴様いつまで女子でいるつもりだ問題』で講談社エッセイ賞を受賞。著書『私たちがプロポーズされないのには、101の理由があつてだな』(ポプラ社)、『生きるとか死ぬとか父親とか』(新潮社)がドラマ化された。TBSラジオ「ジェーン・スー生活は踊る」でMCを務める。

自分に「OK」と
言える人になって

満席の会場に、大きな拍手で出迎えられたジェーン・スーさん。「多様な人や価値観を尊重し合うことでいい世の中になるはず」と演題に込めた思いを伝え、講演を始めました。

20歳の頃、「将来『普通に』結婚し、仕事をセーブして子どもを産み育てる」と想像していたスーさん。「社会の常識を押し付けられ、自分でもそれが『普通』と思っていた。今の独身生活は世の中の『普通』には当てはまらないけれど幸せ」と気づき、「誰かのまねをしても居場所(＝必要とされている実感)は作れません。みんなと同じことができない自分にも『OK』と言えるようになって」と、自己受容の大切さを訴えました。

その「普通」に
疑問を持つこと

自分が思い描いていた「普通の女性」とは違う人生を楽しんでいるスーさん。これまでの経験から、人に「女らしさ」を問うと、生まれも育ちも違つのに皆、同じようなキラーワードを想像できてしまつたのか。そのことを、スーさんは「恐怖」と表現

しました。女性はおとなしい、料理が得意、献身的、子育てをする…など、生きる中で誰もが刷り込まれがちな女性の概念や役割。「社会がつくった理想からかけ離れることで、自責の念を抱いて苦しむ人もいます。もちろん『男らしさ』も同じこと」。さらに性別や家族構成の多様性にも触れ、「まずは自分の中の『普通』がどうやって作られたのか考えることが、価値観を更新する一歩になる」と強調します。

「未来を怖がらないで
とエール

質疑応答では、参加者から今後の生活への悩みなどが語られました。スーさんは「不確定な未来を



「価値観をアップデートするには、新しい技術に付いていくことも大切」と教えてくれました



スーさんの軽妙なトークに会場がぐっと引き込まれていました

怖がるのではなく、臨機応変に対応していくこと」を熱弁。「今はできなくても明日の自分はできると思えば『これでもいいのだ』と言えるはず。変わることを恐れず、幸せの形は自分で決めよう」このメッセージに、会場は背中を押されたように、ひととき大きな拍手に包まれました。

参加者からは「自分を認めようと思った」「女らしさの問題と同時に男らしさの問題にも目を向けていきたい」などの声が聞かれました。ストレートな言葉の中にもスーさんの温かく寄り添う心を感じられたようです。

編集員感想

「不完全な自分を受け入れるには『できなくても気にしない練習』と『できると信じる練習』が必要」。スーさんから贈られた直球のメッセージに元氣と勇氣をもらいました。

(編集員 中津海 麻紀さん)



はあもにいでは、男女共同参画社会の実現に向けた講座や講演会、イベントを開催しています。令和5年秋から冬に行われた主なものを紹介します。

～自分らしい生き方・働き方～

プチ起業はじめの一步セミナー&座談会

起業の第一歩！先輩起業家を交えた交流の場



(左から)諸藤さん、上野さん、鈴木さん。それぞれの起業ストーリーを率直にトーク



グループワークで互いにアドバイスし合い、新たな視点をプラス

自分にできる範囲で無理せず始めるプチ起業。23年10月14日(土)、起業を考えている人が第一歩を踏み出すための講座を実施。15人が参加しました。

講座では、起業・副業アドバイザーの鈴木与施子さんが、最近の起業スタイルの傾向や大切にしたいマインドを伝えました。また、フォトグラファーの上野未来さん(まばたきPhoto&Design)と、インターネットでコーヒー販売を行う諸藤栄一さん(MORO珈琲)が、“先輩起業家”としてそれぞれの事業への思いや経験談を語りました。

その後、グループでそれぞれの起業プランを紹介し、互いに意見を出し合いました。中には、思いもよらない販路の発見や事業コラボレーションの可能性が生まれた人も。続く座談会では、今後の展開のために参加者同士が積極的に交流し、つながりを広げました。

次なる目標を立てたところで講座は終了。参加者からは、「刺激を受けたり新たな情報を得たり、自分の志を確認できたので良かった」「同じ思いを持っている方と話が出来て良かった」など、前向きな感想が寄せられました。

父子でXmas寄せ植え講座

土や植物に触れながら、親子で楽しく交流

23年11月26日(日)に開催した寄せ植え講座に、10組の父子が参加しました。講師は宇城市でガーデニング教室などを行う「Life design暮らしのコンシェルジュ」代表の小鉢しのぶさん、悦郎さん夫妻。土作りや水やりの仕方などについての説明に、父親たちが熱心に耳を傾けていました。

後半の寄せ植え体験では、植物の配置・バランスを父子で何度も相談しながら作業する姿が見られました。最後にクリスマスの飾り付けをし、それぞれ思いが詰まっ

た個性豊かな寄せ植えが完成しました。

本講座は、家庭や子育てに参画することの大切さを父親に感じてもらい、地域にも関わる機会を増やすことを目的に企画。参加者からは、「土の選び方や植え方を学びながら、いつもと違った親子交流ができて良かったです」「子どもが自主的に植栽していた。家でも楽しんでほしい」などの感想が寄せられました。寄せ植え体験を通じて、父子の特別な触れ合いの時間を持つことができました。



寄せ植えのポイントを小鉢夫妻から学びました



父子ですてきなクリスマスの寄せ植えを作りました

01



みんなの
「わがまま」入門

富永京子／著
左右社／発行

「わがまま」をきっかけに 社会が良くなる!?

生活で不公平感や違和感があっても、言わずにがまんすることがあります。そして素直に意見や不満を言える人を「わがまま」「自己中心的」なんて感じてしまうことも。しかし、一見「わがまま」に思える言葉が、実は政治や社会を生きやすい方向へとつくり変えてきました。

この本は、今よりも生きやすい社会になるために、他人の意見を優しく受け止めながら自分の考えをしっかりと表現する方法を伝えます。中高生向けの本ですが、大人も日頃のコミュニケーションに役立てられるはずです。

テーマ

自分を伝える、
自分を生きる、

02



ひとまず上出来

ジェーン・スー／著
文藝春秋／発行

加齢は悩ましい？ いや、自分次第で人生は楽しめる！

年齢を重ね変化する身体、化粧のノリ、物事の見方…など、思わず共感してしまう日常のエピソードを、気取らない本音を交え軽快なテンポで描いたエッセイ集。昔の自分だったらと思い巡らすことはあれど、加齢は決して残念なことじゃない！「いまだに苦手も弱点もあるけれど、今の自分も悪くない。これからの人生も楽しもうじゃないか」というメッセージが感じられるこの本は、読者の心を軽くしてくれます。

※紹介した本は、はあもにい1階情報資料室で貸し出しています。



編集後記

2年間ありがとうございました！

今号で現編集員の任期は終了し、次号から新編集員を迎えます。

市民編集員としての2年間、さまざまなお話を聞く機会がありました。

特に同級生同士で一念発起し、アクセサリーの製作・販売を始めた女性2人のお話(vol.94)が印象に残っています。育児をしながら、知恵と情熱で一步一步自分のやりたいことを実現していく姿に刺激を受けました。

これからも、困ったり、辛いことがあったりしたときにヒントや元気がもらえる誌面であってほしいと思います。



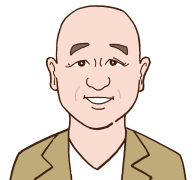
中津海 麻紀 編集員

くまもと市男女共同参画会議を傍聴して、一般市民にも公募委員として政策決定に関わるチャンスがあると実感できました。この「はあもにい」の市民編集員の活動もそうですが、積極的な社会参加へ一歩踏み出してみると、自分の世界が広がります。関わりがなかった場所へ参加し、人と出会って話を聞き、専門家の話を聞くこともできます。このような機会を得られたことに感謝しています。



徳永 邦子 編集員

市民の行政参加の手立てとなる審議会。本市で女性参画が少ない状況は、望ましい公共社会づくりでは「まだまだ」なのだ。常識にとらわれないクリエイティブシンキングが求められるだろうし、結果を具体化できてこそ市民の行政参加となるのだろう。男女の社会的役割は変化の連続。女性の政治参加も80年近い。そろそろ女性の金銭的劣位がなくなる社会が実現すれば面白いのだが。



山口 達也 編集員

はあもにい施設ご利用案内

- ◆開館時間 ホール・研修室等9:00～21:30 施設予約受付・情報資料室9:00～19:00
◆休館日 第2・第4月曜(ただし祝日の時は翌日)、12月29日～翌年1月3日

※表記した使用料金は基本料金です。入場料を徴収するなど商業活動を目的とした使用の場合は、加算対象になります。

ホール



◎メインホール

(372席※うち車いす席8台分)

コーラスやピアノ、ダンスなどの発表、演劇公演、映画上映などさまざまな催しものに対応します。客席との距離が近い小規模ホールなので、参加型のイベントにもおすすめです。

※2024年5月から12月末まで改修工事のため利用不可(延長の可能性あり)

料金	時間区分	午 前 (9:00～12:00)	午 後 (13:00～17:00)	夜 間 (18:00～21:30)
	平日	7,500円	11,300円	15,000円
	土・日・祝日	9,000円	13,500円	18,000円

★冷暖房・付属設備の使用は別料金です



◎多目的ホール

(収容人数200人)

昇降機能を備える円形の舞台や可動式の客席で、空間を自在にレイアウトできます。小劇場の公演やライブ、展示会、ファッションショーにも最適です。

料金	時間区分	午 前 (9:00～12:00)	午 後 (13:00～17:00)	夜 間 (18:00～21:30)
	平日	4,000円	6,000円	8,000円
	土・日・祝日	4,800円	7,200円	9,600円

★冷暖房・付属設備の使用は別料金です

機能が充実した専用施設



◎食のアトリエ(収容人数36人)

料理講習会や実演、食事会などに
ご利用いただけます。

料金	時間区分	午 前 (9:00～12:00)	午 後 (13:00～17:00)	夜 間 (18:00～21:30)	昼食の部 (9:00～14:30)	夕食の部 (15:30～21:30)
	食のアトリエ	2,300円	3,100円	3,700円	3,800円	5,300円

◎リハーサルA室

(収容人数10人)

バンド練習のための防音室。ドラムやベースアンプを常設しています。



◎リハーサルB室

(収容人数40人)

グランドピアノがある部屋。コーラスの練習に最適です。



◎リハーサルC室

(収容人数20人)

ダンスや演劇レッスンができる床板の部屋。ロッカー・シャワー室完備。



料金	時間区分	午 前 (9:00～12:00)	午 後 (13:00～17:00)	夜 間 (18:00～21:30)
	リハーサルA室	950円	1,300円	1,500円
	リハーサルB室	2,000円	2,700円	3,200円
	リハーサルC室	2,200円	2,900円	3,500円

会議・ セミナー・ 研修に

◎会議室

(収容人数50人)



円卓のテーブル(備え付け)、マイク付きの司会台を備えた本格的な会議室です。円卓着席数26、補助席数24。

◎研修室A・B・C室

(収容人数各36人)



セミナーや会議などに利用できる研修室。各室36人定員。A室とB室は間仕切りを外せば72人まで収容できます。

料金	時間区分	午 前 (9:00～12:00)	午 後 (13:00～17:00)	夜 間 (18:00～21:30)
	会議室	3,700円	4,900円	5,800円
	研修室	2,000円	2,700円	3,200円

はあもにいHPで
360° 画像を見られます
(リンク先で部屋名を選択)



i n f o r m a t i o n

熊本市男女共同参画課から 相談室のご案内

熊本市では、下記の相談窓口を開設しています。**相談は無料**、どなたでもご利用いただけます。各相談では、専門の相談員がお話を伺い、**秘密は固く守られます**。ひとりで悩まずに、お気軽にご相談ください。

	内 容	相 談 日 時	電 話 番 号
専 門 相 談	DV相談	電話相談 月～金曜 8:30～17:15	096-328-3322
	DV法律相談	メール相談 いつでも可能 ※ただし、回答に1週間 程度かかります	dv_soudan@city. kumamoto.kumamoto.jp
	男女共同参画に 関する法律相談	面談相談 毎月第2、3木曜 13:00～16:00	面談には予約が必要です 予約専用電話 096-352-2587 (月～金曜 9:00～16:00)
	離婚・親権・各種ハラスメントなど 男女共同参画に関する相談に弁護 士がアドバイスします	面談相談 毎月第4木曜 13:00～16:00	

※ご相談は、各区福祉課でもお受けすることができます ※はあもにいに相談室はありません



熊本市男女共同参画センター

はあもにい

HARMONY

お知らせ

毎月開催

原則毎月第1火曜
11:00~11:30

親子のふれあい
よんでよんでのかい

季節のテーマを盛り込んだ絵本や紙芝居、ふれあい遊びなどを、親子で楽しみませんか。パパやおじいちゃんおばあちゃんの参加也大歓迎。不定期で「オンラインよんでよんでのかい」も実施中！

対象:小さいお子さんがいるご家庭 参加:無料 予約:不要

原則毎月第3水曜
10:00~15:00

働き方相談所

ハローワーク職員が月に1度はあもにいに出張し、就業相談を行います。子育て中で再就職を考えている方、転職を考えている方、就業に不安を抱えている方など、お気軽にご相談ください。

申込:要(開催日の8日前まで、1人あたり1時間)

託児:あり(1歳~未就学児まで、無料、10日前まで要予約)

令和6年度の講座案内・募集

男女共同参画の視点に立った 防災出前講座



自治会や地域グループ、学校、企業などさまざまな団体を対象に、「防災ポイントBOOK」を用いた出前講座を無料で実施。日時・場所は応相談。オンラインでの講座も対応可。

申込 要 費用 無料 期間 2024.5~2025.1月末

場所 熊本市内。実施場所は申し込み団体側で確保

講師 はあもにいスタッフ、はあもにい公認講師

デートDV(ドメスティック・バイオレンス) 防止出前講座

デートDVの意味や内容を正しく理解し、学んでいただく出前講座を実施。内容詳細については応相談。グループ単位、クラス、学年、学校単位など、対応人数もご相談ください。

申込 要 費用 無料

対象 生徒・学生やその保護者

講師 無料で派遣

はあもにいが応援します！ 新規市民グループの募集

活動場所や発表の機会を求めている新しいグループの活動を、はあもにいが支援します。貸室の提供、活動日の託児受け入れ、メールボックスの提供など。実施要綱はホームページに掲載しています。お気軽にお問い合わせください。

条件 「男女共同参画の推進」につながる活動内容であること、発足3年未満のグループであること、はあもにいを拠点に活動すること

支援期間 2年間(延長可) 募集 3~5グループ(書類・面談による選考あり) 申込 所定の申請用紙に記入し、メール、郵送、または持参

はあもにいの最新講座情報は…

はあもにいホームページ、Facebook、Instagram、はあもにい通信(毎月25日発行)、市政だよりをcheck！



◀はあもにい
ホームページ



◀Facebook



◀Instagram



◀はあもにい通信
バックナンバー



▶講座へのお問い合わせや本誌へのご意見・ご感想

◎熊本市男女共同参画センターはあもにい

✉info@harmony-mimoza.org ☎096-345-2550 9時~19時

熊本市男女共同参画センターはあもにいの詳しい情報はこちらから

はあもにい 熊本

検索



発行者

編集・発行
市民編集員

〒860-8601

熊本市中央区手取本町1-1

〒860-0862

熊本市中央区黒髪3-3-10

徳永邦子 中津海麻紀 山口達也

熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課

熊本市男女共同参画センターはあもにい